

各種聖像の成聖祈祷

輔司誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

※(成聖する聖像の種類によって、以下の聖詠と祝文を使い分ける。)

一、救世主の聖像に

第八十九聖詠

主よ、爾は世世に我等の避所たり。山未だ生ぜず、爾未だ地と全世界とを造らざる先、且世より世までも爾は神なり。爾人を塵に帰らしめて曰う、人の子よ、帰れと。蓋爾が目の前には、千年は過ぎし昨日の如く、夜間の更の如し。爾は大水の如く彼等を流す、彼等は夢の如く、朝に生うる草の如し、朝には花咲きて且青し、暮には刈られて稿る。蓋我等は爾の怒に因りて消え、爾の憤に因りて惶れ惑う。爾は我等の不法を爾の前に置き、我等の隠れたる事を爾が顔の光の前に置けり。我等が悉くの日は爾が怒りの中に過ぎ、我等は我が歳を失うこと音の如し。我が歳の数は七十年、或いは健全なれば八十年なり、其間の壮なる時も劬勞と疾病あり、蓋其過ぐることに速にして、我等飛び去る、誰

誦

か爾が怒りの力を知り、又爾を畏るる度に依りて、爾の憤りを識らん。願わくは我等に我が日を算うることを教えて、智慧の心を獲しめ給え。主よ、面を回せ、何の時に至るか、爾の僕を憐み給え。夙に爾の憐みを以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歎び楽しまん。爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭いし年に代えて、我等を樂ましめ給え。願わくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん、願わくは主吾が神の恵は我等に在らん、願わくは我が手の工作を我等に助け給え、我が手の工作を助け給え。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に帰す。(三次)

主に祈らん。

主憐めよ。

輔 詠

成聖祝文

全能の神萬物を造りし主や、爾は至上の恩寵及び永久の救を賜う者なり、恩寵の至らざる処なき主や、爾自ら聖神を遣わし、此の聖像に福を降し、此の聖像

に由りて爾に祈禱する者に天より寵佑を賜い、及び之に由りて身体の壮健と靈の救贖を賜う無形の力を降し給え、我が主イエス・ハリストスの名に因りてなり。

アミン。

二、諸聖人の聖像に

第三百三十八聖詠

主よ、爾我を試みて我を識る。我が坐し、我が起つことは、爾之を識る、爾遠きより私の念慮を知る。我が往くにも、我が息うにも、爾我を環る、我が悉くの途は爾之を知れり。我が舌未だ言なきに、爾、主よ、已に全く之を識る。爾前後より我を圍み、爾の手を我に置く。爾の知識は我が為に奇異なり、高尚なり、我之を測る能わず。我安に往きて爾の神を避けん、安に走りて爾の顔

を逃れん、天に升らんか、爾彼處にあり、地獄に降らんか、彼處にも爾あり、暁の翼を取りて、海の極に移らんか、彼處にも爾の手我を導き、爾の右の手我を援けん。或は云わん、闇冥は我を隠し、我を環る光は夜とならんと、然れども闇冥も爾の前に暗からしめざらん、夜も明なること晝の如く、闇冥は光の如し。蓋爾我が臍腑を造り、我が母の腹の中に我を織れり。我爾を讚榮す、蓋我奇妙に造られたり。爾の作為は奇異なり、我が靈全く之を知る。我が奥密に造られ、腹の深處に形づくらるる時、我が骨爾に隠れず。我が胚胎は、爾の目之を見たり、我が為に定められし日は、其の一も未だあらざりし先に、皆爾の書に記されたり。神よ、爾の念慮は我が為に何ぞ高き、其数は何ぞ多き。我之を計らんか、然れども其多きこと沙に過ぐ、我寤むる時、尚爾と偕にす。嗚呼神よ、願わくは爾悪者を撃たん、血を流す者よ、我に離れよ。彼等爾に向いて悪を言い、爾の敵は空しきことを謀る。主よ、我豈に爾を疾む者を疾まざらんや、我豈に爾に逆う者を厭わざらんや、我甚しき疾を以て彼等を疾み、彼等を以て我が敵となす。神よ、我を試みて、我が心を知り、我を試みて、我が念慮を知り給え、且觀よ、我危き途に在るにあらずや、乃我を永遠の途に向わしめ給え。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

主に祈らん。

主^{あわれめ}憐めよ。

輔 詠

成聖祝文

司

主神全能者我が先祖^{せんそ}の神や、爾は旧約の時、木と金と縫^{ぬい}繡^{ひも}を以てヘルワイムの像を会幕に置くを命ぜり、今も爾に悦^{よろこ}ばるる諸聖人の像と形^{かたち}を棄^すてず、爾の忠なる僕^{ぼく}をして此^{これ}を見て、彼等を讃^{さん}美^{えい}し、又爾を讃^{さん}揚^{よう}し、且つ彼等の渡世^{わたせい}と行^い為^{ない}に倣^{なら}う者と致させ給え、彼等は己の生命^{いのち}と行^い為^{ない}を以て、爾の恩寵に依りて、天国を受けるを得たり、祈る、爾の聖なる(使徒、又は預言者、成聖者、致命者、克肖者)〔某〕の名と記憶の為に画^{えが}きし此の像を看^み、爾の天の福祉を降して是を聖にし給え、凡そ之を尊^{とうと}び、此の前に於いて爾に叩^{たた}拝^{はい}、祈^{いのち}禱^{たい}し、此の聖なる〔某〕の傳達^{たつた}を以て、爾に呼ぶ者の祈りを聴^きき入れ、彼等を諸^{もろもろ}の悲哀^{ひあい}、艱難^{かんなん}、靈形^{れいけい}の病^{やまい}より救い、又其聖なる〔某〕の祈^{いのち}禱^{たい}に依りて、彼等に其望^{もちこ}む処^{ところ}の爾の豊^{ゆた}なる恩

寵と仁慈を與^{あた}え給え、

蓋爾は成聖の泉と萬善を與^{あた}うる者なり、我等爾の独生子と至聖至善にして生命を施す爾の神^{しん}とに光荣を献^{けん}ず、今も何時も世世に。

詠

アミン。

※(次いで、司祭は聖像に聖水を灌ぎながら曰く。)

此の聖像は、至聖なる神の恩寵と此の聖水の灌^{そそ}がるるを以て成聖せらる、父及び子及び聖神の名に依りてなり。(三次)

アミン。(毎時応答する)

輔 詠

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操^{みさお}を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実^{じつ}の生神女たる爾を崇^{あが}め讃^ほむ。

ハリストス神我等の恃^{たの}みや、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

司

詠

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。主^{あわれ}憐めよ（三次）。
福^{ふく}を降^{くだ}せ。

司

ハリストス我等の眞の神は、その至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、爾の聖なる（使徒、又は預言者、成聖者、致命者、克肖者）〔某〕、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐^{あわれ}み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠

アミン。